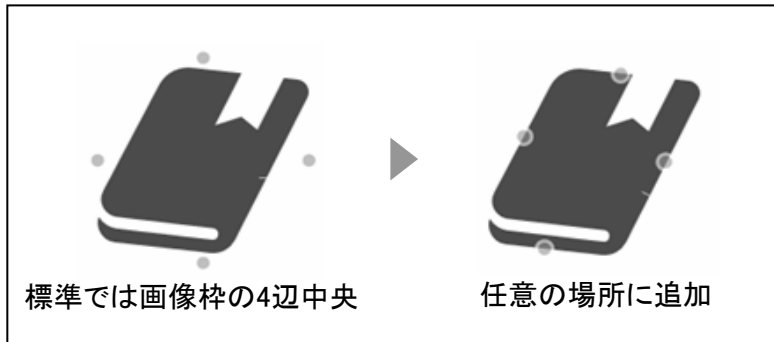


画像対応について

pptx形式で保存されたファイル内の画像(pngやjpg)に接続ポインを追加する機能です。
出力形式は、pptx形式のみとなります。

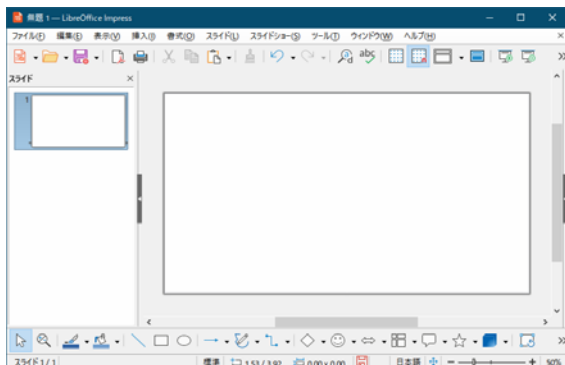
odp形式への出力については、規格上接続ポイントの属性が見つけられず、やり方が分からなかったことと、LibreOfficeの機能により、接続ポイントの追加が可能なので、それほど有用な機能ではないと思ったため対応していません。



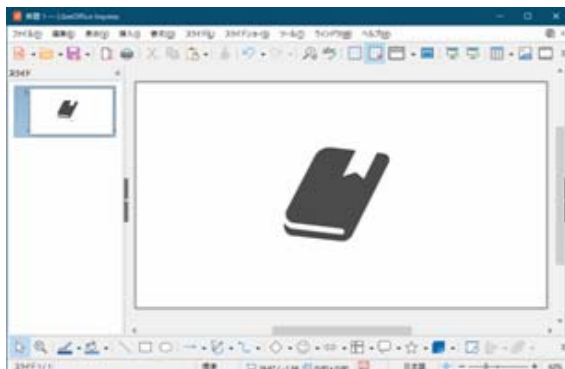
1. Office内でトリミングした画像にも対応したつもりですが不具合がある場合、予めトリミングした画像を使用して下さい。
2. 画像形式により対応してない物もあるため、動作がおかしかったり、画像を認識していないようでしたら、予めpngかjpgに変換した画像を使用して下さい。
3. 手順通りに作成した限定的なファイルのみに対応しています。
 - ・複数の画像を含むファイルには対応していません。
 - ・グループ化された図形には対応していません。

入力ファイルの準備

1. LibreOffice Impressを起動したら、スライド内の全てのオブジェクトを削除。



2. メニュー→「挿入」→「画像」



3. 保存

メニュー→「ファイル」→「名前を付けて保存」→「ファイルの種類」

- PowerPoint 2007-365 (*.pptx)

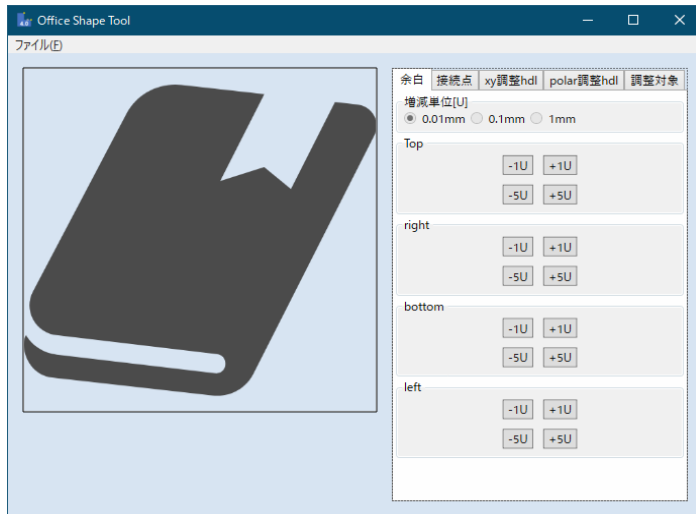
もしくは

- Office Open XML プレゼンテーション (*.pptx)

の形式で保存して下さい。

ツールの使い方

1. ツールを起動し、メニュー→「ファイル」→「開く」から、作成したpptxファイルを開いてください。



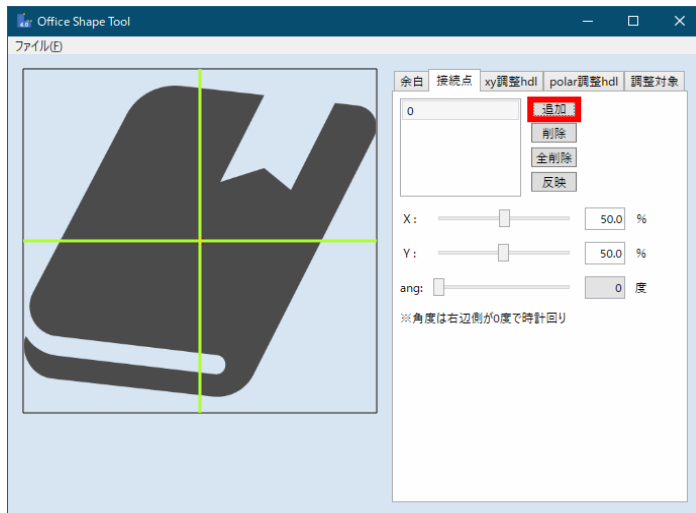
- ・「余白」タブ
画像には使用できません。
- ・「接続点」タブ
接続ポイントを追加・設定します。
- ・「xy調整hdl」「polar調整hdl」タブ
調整ハンドルを追加・設定します。
- ・「調整対象」タブ
各調整ハンドルと紐づく接続ポイント・エディットポイントを設定します。

※各機能の使い方は、「OfficeShapeTool.pdf」と同様です。

※調整ハンドルも設定できますが、画像枠が四角形のみとなるため、あまり使い道はないと思います。

2. 接続ポイントの追加

「接続点」タブで「追加」を押すと、図形の真ん中あたりに点が追加されます。
(赤い点が接続点。緑色の線は接続点を見つけやすくするためのガイド線)



X: 接続点の横位置(%)

Y: 接続点の縦位置(%)

ang: 接続点へ接続するコネクタの角度(90度単位。右辺側が0度で時計回り)

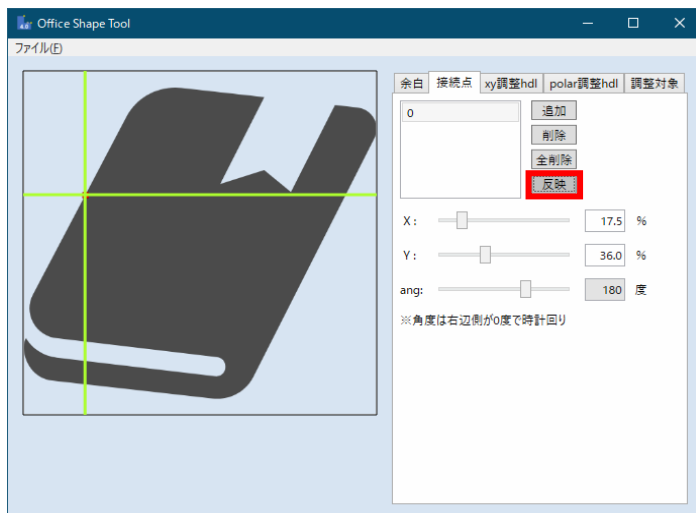
今回は、

X=17.5、Y=36、ang=180

に設定します。

(図形表示領域をマウス左ボタンでクリックすることでもX, Yを指定出来ます)

最後に、「反映」を押して設定した内容を反映します。

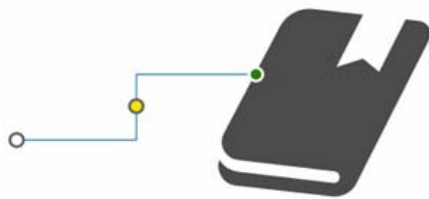


3. 保存

メニュー→「ファイル」→「保存 (pptx)」を選択すると、入力ファイル名の末尾に「_a」がついたファイルが保存されます。

4. 動作確認

保存したファイルをPowerPointで開いて想定した動作になっているかどうかを確認します。線の色や図形の色がついてない場合があるかもしれないので、その場合は、PowerPointのメニューから任意の色を設定して下さい。



動作確認が終わったら、本ツールのメニュー→「ファイル」→「終了」を選択して終了して下さい。